

みんなで使おう学校図書館！

# 学校図書館支援便り

市立図書館司書と支援担当の学校司書が  
学校図書館支援を行っています



ブックン(やべみつのりさん画)

平成30年11月5日  
東村山市立中央図書館  
学校図書館支援担当

読書週間 10/27～11/9 今年の標語は「ほっと一息 本と一息」

## 第64回学校読書調査 本は好きだが、不読率は上がる傾向に

毎日新聞社と全国学校図書館協議会が実施した「学校読書調査」の結果が発表されました。

本を好きと答えた子どもは小中高とも70%を超えているのに、1か月に1冊も本を読まない不読率は上がり、読書量は下がる傾向にあります。また、どんなときに本を読みたくなるかの項目では、「ひまな時間ができたとき」が最多となっています。忙しい子どもたちに読むゆとりがないということでしょうか。朝読書なども削られる傾向があるそうですが、やはり時間の確保が重要なのではないのでしょうか。



### 「学校図書館活用で教科等横断的学びを ～読む力と情報活用能力の育成～」 堀川照代先生講演報告

9月11日、学校図書館担当者連絡会と学校司書研修が合同で行われました。今回は、文科省より出された「学校図書館ガイドライン」の策定に携わった、青山学院女子短期大学教授の堀川照代先生を講師に迎えました。

はじめに今、児童生徒に求められる力として、読解力と情報活用能力を挙げ、新学習指導要領でも教科横断的な視点をもって教育課程の編成をしていくことが求められていることを紹介。そのためには学校図書館の機能を活かして情報活用能力を育てるための指導体系をうまく組み込むカリキュラム・マネジメントが必要とのことでした。

情報活用能力の育成には、探究学習を繰り返し行うことが重要。ちゃんと調べられたという成功体験をつみ重ねることで、あきらめない子どもが育つ。それは学力調査などで、記述式の回答をあきらめないことにもつながっているそうです。東村山でも全国学力・学習状況調査のまとめができましたが、やはり記述式の無回答率の高さが課題となっています。家庭での読書量と学力の相関も指摘されており、学校図書館の役割はますます大きくなっているといえそうです。

先生が強調されたのは、探究学習などで学校図書館が活用されるためには、司書教諭と学校司書の連携が大切ということです。まずは様々な探究に対応できるよう、資料をそろえ、情報カードなどの思考ツールの用意をするなどの整備をしっかりとうえて、先生たちに活用をアピールしてほしいということでした。

### とにかく短い本が人気です！

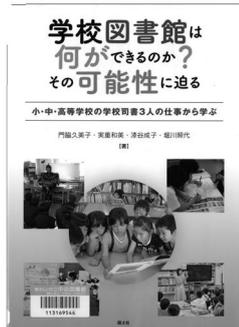
最近、学校図書館で人気の本といえば、『5分後に意外な結末』(学研プラス)に代表される、超短編アンソロジー。さらに3分、1分で読めるものや、100字の小説などどんどん短くなる傾向にあります。また『ざんねんないきもの事典』(今泉忠明 高橋書店)などの生きもの本も大変な人気ですが、これらも基本見開きで読み切れる形。パッと読めるのが、忙しい今の子どもたちに人気の秘密なのかもしれません。

短い言葉で端的に表現したり理解したりすることは、SNSなどでも求められている能力ですが、ものごとを短絡的に考えることにもつながりそうな怖さもあります。小中学生のうちに長い物語に没入し、複雑なものを読み切る達成感も味わってほしいものです。



### ★堀川照代先生の著書

中央図書館にあります。ご活用ください！



『学校図書館は何ができるのか？  
その可能性に迫る』国土社



『学校図書館ガイドライン  
活用ハンドブック 解説編』  
悠光堂